

伊豫守が多く、河内守・丹後守もあり、他の奥村氏は僅かに一人の丹波守を出した。

シヨジャクソウサクキ 書籍搜索記 一冊。貞享元年から三年に至る間に、津田太郎兵衛が前田綱紀の命を奉じ、京都に滞在して、堂上方の記録を搜索報告した目録である。

シヨシヤブギョウ 書寫奉行 寶永五年五月晦日初めて有澤彌三郎・熊内彌助二人を命ぜられた。従来書寫方の御用は御書物奉行が勤めて来たのであるのを分けたのである。享保十一年二人は御書物奉行に轉じて之を兼ね、十三年御書物奉行大地新八郎、十九年同竹村新右衛門、元文三年同近藤四郎右衛門、寶曆四年同堀七左衛門、六年同齋田十郎右衛門・同山本宗助が並びに之を兼ね、爾後御書物奉行一統の兼職になった。

シヨシヤヤク 書寫役 ↓シヨモツヤク 書物役。

シヨシユウタイテンジカキアゲチヨウ 諸宗退轉寺書上帳 一冊。元祿十年に從來領内に於ける諸宗寺院の斷絶した由来を書上げしめたものである。

シヨシユウツツカクキ 諸宗佛閣記 十二冊。石川郡宮腰の人鶴屋興三右衛門が、數十年を費して諸國の有名なる佛閣に就いて、本願人・住持歴代・寺號・山號・院號等を書集めたもの。馬淵高定の宮腰町奉行の頃のものだから、寶永乃至享保とせられる。

シヨシヨウバナシ 諸將咄 一冊。寛保三年町村紫桐著。織・豊・徳三家及び前田利長・利常・光高に關する説話を載せてある。

シヨシヨウフ 詩餘小譜 二冊。致堂横山孝誼(政孝)の詩集で、その男政和が明治十二年に集めたもの。致堂詩彙・致堂遺稿外編の補遺である。

シヨダイブ 諸大夫 ↓シヨシヤク 叙爵。シヨテツカテンシヨ 如鐵家傳書 ↓ワキダカデンシヨ 脇田家傳書。シヨテン 徐天 ↓カンシツジヨテン 關室徐天。

シヨバ 諸場 獨立した藩の公解をいふので、公事場御算用場・御普請會所・御作事所・御細工所・會所・割場がそれであつた。

シヨバツシユウ 序跋集 九十六卷。前田綱紀が漢籍の序跋を寫して之に訓點を附せしめ、以て學者の閱覽に便したるもの。一種の漢籍解題と見るべきものである。

シヨブツネダンコウ 諸物直段考 一冊。享保三年有澤武貞著。夫米夫銀考・普請役考・出銀考・大工日雇等一日の雇手間考・下々奉公人給米給銀考・足輕切米考・馬牛考・飼料考の各項が載せられる。

シヨブツルイサン 庶物類纂 前田綱紀が本草綱目の遺漏を補はんが爲、元祿の初から稻宣義に命じて作らしめた所で、當初の豫定する筈であつたが、宣義は半途にして正徳五年に歿した。藩乃ち享保四年九月その脱稿した三百六十二卷九類一千八百八十餘種を謄寫して幕府に上り、次いで宣義の門人藩醫内山覺仲等に命じ、殘餘の稿を續せしめたが、九年綱紀も亦薨じて事業を廢した。是に於いて將軍徳川吉宗はその大成を謀り、十七年宣義の門人であつた幕醫丹羽正伯に補修を命じ、十九年覺仲及び宣義の子孝興を江戸に召して

之を助けしめ、元文三年に至つて新たに六百三十八卷を加へ、正編一千卷二十六類二千二百十四種の記載を完成することを得た。

シヨホウオドゾウブギョウ 諸方御土藏奉行 其の初は詳かでないが、寛文年中富田彌兵衛・原八郎右衛門・千秋太郎左衛門・横井五郎左衛門・後藤嘉右衛門が勤め、延寶四年には角尾五左衛門・丹羽次郎兵衛が命ぜられた。元祿初年までは三人或は四人のこともあつたが、寶永年間以後は兩人充勤務することになった。↓シヨホウシヨ 諸方所。

シヨホウシヨ 諸方所 藩士等の諸上納金、町人の營業に對する冥加銀・運上銀等を收納する金庫を諸方御土藏といひ、諸方所でその事務を取扱うた。諸方所の主任は即ち諸方御土藏奉行である。

シヨホン 如本 ↓タチヤジヨホン 館屋如本。

シヨムキゴニユウウカトリチヨウリカ タゴヨウ 諸向御入用方取調理方御用 御馬廻頭並びに御算用場奉行から之を勤めた。文政四年五月十九日御馬廻頭笠間源太左衛門以信・一木逸角移忠の外に、御算用場奉行遠田誠摩自久・堀孫左衛門善勝・大地縫殿左衛門文寶・山崎頼母稱侃の命ぜられたのが始であり、同五年五月八日又御勝手方御用から兼帯を命ぜられた。この役所は御符合方役所ともいひ、藩の收支符合に關する調査に従つたものと見える。

シヨモツサイカクニン 書物才覺人 延寶・天和・貞享の頃、前田綱紀が書籍を搜索せしめるが爲、他國に遣はした役人で、津田太郎兵衛などが之を勤めてゐた。

シヨモツヤク 書物役 御書物役は古く御書物書寫役といひ、後世は書寫役といふた。珍籍奇書を謄寫することを掌る。寛文六年諸士の子弟有澤又助・寺西助右衛門・長井儀左衛門・毛利久右衛門・和角兵助等新たに命ぜられ、各切米三十俵・六人扶持を賜はつて組外に班し、延寶五年には山本源右衛門・西坂彌左衛門當役となり、五十俵を賜うて歩組に班した。爾後新たに召出され、或は他役から轉じて連綿した。書寫奉行に屬する。

シヨヤ 除夜 藩政時代では除夜を大年といひ、間燈を點じ、福茶を汲み、蕎麥を食うた。大門・式臺は歳末の來客がある爲に、夜半まで明け放たれた。厄拂ひの修驗者が夕刻から來ることは節分に同じい。子の刻に各寺院では百八聲の梵鐘を鳴らしたが、兩本願寺別院では太鼓を打ち、他の眞宗寺院では何も鳴らさなかつた。

シヨヤクゼンロク 諸役前録 一名諸役系圖。加賀藩平士の諸職務の補任記録である。頭分諸役前録及び平士諸役前録に分かれたる。平士諸役前録は平士定役前録ともいふ。前録は此等の各役を類聚し、各姓名拜命の年

之を助けしめ、元文三年に至つて新たに六百三十八卷を加へ、正編一千卷二十六類二千二百十四種の記載を完成することを得た。

シヨホウオドゾウブギョウ 諸方御土藏奉行 其の初は詳かでないが、寛文年中富田彌兵衛・原八郎右衛門・千秋太郎左衛門・横井五郎左衛門・後藤嘉右衛門が勤め、延寶四年には角尾五左衛門・丹羽次郎兵衛が命ぜられた。元祿初年までは三人或は四人のこともあつたが、寶永年間以後は兩人充勤務することになった。↓シヨホウシヨ 諸方所。

シヨホウシヨ 諸方所 藩士等の諸上納金、町人の營業に對する冥加銀・運上銀等を收納する金庫を諸方御土藏といひ、諸方所でその事務を取扱うた。諸方所の主任は即ち諸方御土藏奉行である。

シヨホン 如本 ↓タチヤジヨホン 館屋如本。

シヨムキゴニユウウカトリチヨウリカ タゴヨウ 諸向御入用方取調理方御用 御馬廻頭並びに御算用場奉行から之を勤めた。文政四年五月十九日御馬廻頭笠間源太左衛門以信・一木逸角移忠の外に、御算用場奉行遠田誠摩自久・堀孫左衛門善勝・大地縫殿左衛門文寶・山崎頼母稱侃の命ぜられたのが始であり、同五年五月八日又御勝手方御用から兼帯を命ぜられた。この役所は御符合方役所ともいひ、藩の收支符合に關する調査に従つたものと見える。

シヨモツサイカクニン 書物才覺人 延寶・天和・貞享の頃、前田綱紀が書籍を搜索せしめるが爲、他國に遣はした役人で、津田太郎兵衛などが之を勤めてゐた。

シヨモツヤク 書物役 御書物役は古く御書物書寫役といひ、後世は書寫役といふた。珍籍奇書を謄寫することを掌る。寛文六年諸士の子弟有澤又助・寺西助右衛門・長井儀左衛門・毛利久右衛門・和角兵助等新たに命ぜられ、各切米三十俵・六人扶持を賜はつて組外に班し、延寶五年には山本源右衛門・西坂彌左衛門當役となり、五十俵を賜うて歩組に班した。爾後新たに召出され、或は他役から轉じて連綿した。書寫奉行に屬する。

シヨヤ 除夜 藩政時代では除夜を大年といひ、間燈を點じ、福茶を汲み、蕎麥を食うた。大門・式臺は歳末の來客がある爲に、夜半まで明け放たれた。厄拂ひの修驗者が夕刻から來ることは節分に同じい。子の刻に各寺院では百八聲の梵鐘を鳴らしたが、兩本願寺別院では太鼓を打ち、他の眞宗寺院では何も鳴らさなかつた。

シヨヤクゼンロク 諸役前録 一名諸役系圖。加賀藩平士の諸職務の補任記録である。頭分諸役前録及び平士諸役前録に分かれたる。平士諸役前録は平士定役前録ともいふ。前録は此等の各役を類聚し、各姓名拜命の年

之を助けしめ、元文三年に至つて新たに六百三十八卷を加へ、正編一千卷二十六類二千二百十四種の記載を完成することを得た。

シヨホウオドゾウブギョウ 諸方御土藏奉行 其の初は詳かでないが、寛文年中富田彌兵衛・原八郎右衛門・千秋太郎左衛門・横井五郎左衛門・後藤嘉右衛門が勤め、延寶四年には角尾五左衛門・丹羽次郎兵衛が命ぜられた。元祿初年までは三人或は四人のこともあつたが、寶永年間以後は兩人充勤務することになった。↓シヨホウシヨ 諸方所。

シヨホウシヨ 諸方所 藩士等の諸上納金、町人の營業に對する冥加銀・運上銀等を收納する金庫を諸方御土藏といひ、諸方所でその事務を取扱うた。諸方所の主任は即ち諸方御土藏奉行である。

シヨホン 如本 ↓タチヤジヨホン 館屋如本。

シヨムキゴニユウウカトリチヨウリカ タゴヨウ 諸向御入用方取調理方御用 御馬廻頭並びに御算用場奉行から之を勤めた。文政四年五月十九日御馬廻頭笠間源太左衛門以信・一木逸角移忠の外に、御算用場奉行遠田誠摩自久・堀孫左衛門善勝・大地縫殿左衛門文寶・山崎頼母稱侃の命ぜられたのが始であり、同五年五月八日又御勝手方御用から兼帯を命ぜられた。この役所は御符合方役所ともいひ、藩の收支符合に關する調査に従つたものと見える。